

平成27年度第1回川崎市青少年科学館協議会摘録

日 時 平成27年6月18日(木) 午後2~4時

会 場 かわさき宙と緑の科学館(川崎市青少年科学館)自然学習棟2階 学習室2

出席者(敬称略)

- (1) 委員 (教育職員) 上杉岳啓、井上明彦(社会教育) 中山純史
(公募市民) 渡邊敬三、服部公俊
(学識経験者) 山上明、勝山輝男、木場英久、(家庭教育) 有北郁子
- (2) 事務局 島田館長、大泉、川島、弘田、小鍛治(生田緑地運営共同事業体)、黒瀬
- (3) 傍聴者 0人

凡例 発言者について

□□: 委員、○○: 事務局員(青少年科学館職員)

1 開会

事務局より、開会告知、傍聴者受入(定員10人)、記録(録音及び筆記)作成及び会議記録公開について周知

2 館長挨拶

3 協議会委員及びかわさき宙と緑の科学館職員紹介

以下、山上会長が議事進行

4 議事1 平成27年度事業計画について

会長の説明依頼に基づき、各担当から説明

渡邊 平成27年度事業評価シート「展示事業-自然展示」において、「展示ワークショップ」とあるが、どういうものなのか。

川島 「自然ワークショップ」のうち展示と係わりのあるもの、展示物を活用したものを考えている。

渡邊 どのように実施するのか。

川島 活用対象とする自然展示物の更新を予定しているので、具体的なイメージはできていないが、参加者に対し、展示物の観覧と連動して楽しめるものを提示したい。

会長 「自然ワークショップ」と明確に区別するか、「自然ワークショップ」と名称を統合するか、いずれかで整理してほしい。

木場 平成27年度事業評価シート「収集保存事業-自然資料の収集と保存・管理」において、鳥類・哺乳類の標本については電子台帳・目録を作成したとのこと、また、他の分類についても同様に作成作業を進めていくとのことだが、新たな資料が次々と加わるなかで作業は順調に進めていけそうか。

川島 当館では膨大な資料が集まってくる現状にはなく、一定量の資料が集まってくる植物資料についてもかわさき自然調査団植物班に対応してもらっており、作業は順調に進めていけるも

のと考えている。甲殻類、両生・爬虫類については電子台帳・目録等の作成作業をほぼ終え、クモ、トンボについても順調に作業を進めている。

有北 平成 27 年度事業評価シート「教育普及事業 - 自然体験」の「人材育成 - ボランティア制度導入についての検討」において、年度計画に「子どものための昆虫学教室」等が記されているが、ボランティア育成にどのようにつなげていくのか。

川島 ボランティア育成の前の段階として、まずは館事業の受講機会を増やすことで、少しでも多くの人々に関心を持ってもらい、長い目でみて館の活動に協力してもらえるボランティア育成の礎としたいと考えている。

受講した子どもたちが成長した後も、科学館に行けば同様な事業を行っている等のイメージを持ってもらえるようにできればと考えている。

会長 平成 27 年度事業評価シート「教育普及事業 - 自然体験」において、実施項目の末尾を「体験・活動」から「体験・学習」に変えているが、理由がなければ元に戻してほしい。

川島 了解した。

会長 また、このような中長期目標（単年度より長い目標）については、策定当初に確定したもので、よほどの理由がない限りは変えないようにしてほしい。できるだけ見直し事項は単年度計画において反映させるべきと考える。

黒瀬 その方向で修正作業を行いたい。

4 **議事 2** 平成 26 年度事業評価について

会長の説明依頼に基づき、各担当から説明

副会長 まず「今後の課題」についてであるが、通常課題とは問題に対し何か変更を加えていく必要がある場合にそれを示すものであるが、シートをみると今までの取組を踏襲する旨の記載が少なくない。本当の課題とそうでないものを今一度整理すべきでないか。

次に、評価の根拠であるが、外部の人々に理解してもらうにはできるだけ数値で示す必要があると思う。例えば「教育普及事業 - 天文体験」の「アストロテラス等での天文体験」においてアストロカーの活用に係る記載があるが、派遣回数記されていない。

最後に、「管理運営 - 管理業務の実施状況」の「収支計画・実績」において、26 年度歳入について、予算・決算に大きな開きがあるがなぜか。

黒瀬 歳入予算については、歳出予算確保に向け強気な計画を組んだが、プラネタリウムの有料観覧者の減少により、決算と大幅な乖離が生じたこととなった。

その他のご指摘については、ご意見を活かして修正作業を行いたい。

渡邊 今年度の事業評価の「達成度」に 2 や 4 をつけた項目に対して、それら「自己評価」に記述された文言からはその評価理由が伝わらない。例えば「本事業について当初の予定より推進された」あるいは「当初予定よりも若干遅れが生じた」などの記述が必要ではないか。

勝山 「教育普及事業 - 自然体験」において、「人材育成」で当初予定していた「展示解説ボランティア育成」について方針転換したのは、自然史資料の整理を優先させることとしたことによるものか。また、この方針転換により、自己評価を 2 としたのか。

川島 そうである。

木場 同じ個所について、年度計画に「展示解説ボランティア育成の検討」とあるので、検討まで至らなかったのであれば、その旨実績等に記してほしい。

- 川島 そうしたい。
- 上杉** 「教育普及事業 - 天文体験」の「アストロカー等での天文体験」にあるアストロカーを活用した観察会と、「学校支援」にある星空ウォッチングとは同じものか。
- 弘田 同じものと捉えていただきたい。
- 上杉** これらについて、中学校ではどれくらいの実施実績があるのか。
- 大泉 昨年度は川中島中、今井中、宮崎中において実施した。
- 上杉** 話は変わるが、年に1回中学校理科教科総会を科学館で実施した後、プラネタリウムにおいて、総会に参加した市内ほぼ全ての中学校理科教員を対象に天体研修を行っているが、行政施設における類似事業の実施実績はまれと思うので、対外的に強調してもよいと思う。また、「教育普及事業 - 天文体験」の「学校支援」にも記載のあるように、理科初任者の指導力向上研修について、おそらくここ10年くらいは科学館で実施されているものと思う。中学校側としては非常にありがたいことなので、評価シートのどこかに強調してもらえるとよい。
- 有北** 「管理運営－施設の利活用」の「広報計画」にSNSを介した情報発信へのフォロー数が増えたとあるが、具体的な数値を記してほしい。また、これらの情報について、個人的にもシェアに努めているが周囲からの反応が芳しくないと感じている。発信情報などについて工夫してみてほしい。SNSについては外国人への情報発信においても有効と思われる。この他、「教育普及事業 - 科学体験」の「21世紀子どもサイエンス事業の推進」にある「ワクワクドキドキ玉手箱」を活用した事業について、3歳児以降の幼児も対象に含まれる事業開催を検討してほしい。
- 服部** 実験教室の開催にボランティアとして携わっている。未就学児が参加者として加わることもあるが、未就学児が内容を理解するのは難しく、工作も保護者が代わりに作業することになってしまう。未就学児も含めて楽しんでもらえるような事業開催は、難しいと感じている。
- 有北** 保育園や幼稚園で行われているような工作では、子どもたちも理解しながら作業しているので、参考にできるのではないか。
- 服部** 「展示事業－天文展示」の「川崎方式のプラネタリウム投影」において、星空ゆうゆう散歩等がほぼ満席という記載がある一方で、「管理運営－収支計画・実績」においてはプラネタリウム観覧料収入が減少しているとの説明があった。平日や土日の観覧状況はどうか。
- 弘田 天気にもよるが満席になるケースもある。またゴールデンウィーク等の連休においては多くの観覧者を迎えている。一方で雨天時等は閑散とした状況になることもある。また、平日の一般投影については、平均して約50名の方々に観覧いただいている。全国的にみてもかなり多いものと捉えている。
- 服部** まだ観覧者を増やす余地はありそうなので、広報等に力を入れてほしい。

5 その他

(1) 次回協議会について

- 黒瀬 今年度は4回の協議会を予定している。第2回は9月～10月に開催、第3回については事業視察として11～12月に開催、第4回については2～3月に開催予定である。
- また、平成26年度事業評価については、ご指摘に基づき修正作業を行い、近日中にメール

にて再提示させていただく。ご承認後、年内の評価確定に向け、皆様方に評価策定作業のお願いをさせていただきたい。

(2) その他

なし

6 閉会

会長より閉会告知